


株式についてのご案内	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
単元株式数	1,000株
株券に関する手数料	株式名義書換 無 料 新券交付 株券1枚につき210円 (消費税額等を含む)
公告方法	電子公告 公告掲載アドレス http://www.organo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由 によって電子公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
上場取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

株式に関するお手続き用紙のご請求方法
住所変更、単元未満株式買取請求、単元未満株式買増請求、 名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、 下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤル又は ホームページをご利用ください。
●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
●ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
オルガノホームページ
5月にホームページをリニューアルいたしました。 IR情報などをご提供しております。




Ecologically Clean



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8

経営企画部 TEL.03-5635-5111

ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

Ecologically Clean

オルガノは、1946年の創立以来、水そのものの価値、そして水の新たな価値の創造にこだわり続けてまいりました。

これからも、かけがえのない地球の未来を見つめ、「心」と「技」で水を有効に活用する技術に挑戦し続けることにより、あらゆる産業界の繁栄並びに人と環境の調和に貢献していきたいと考えます。



代表取締役社長兼CEO
橋本喜代志

1. 当中間期の概況

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。さてここに当社の第63期事業年度（平成19年度）中間期のご報告をさせていただきます。

当社グループを取り巻く市場環境につきましては、民間企業を中心に生産水準・設備投資が底堅く推移しているものの、当社の主要顧客である電子産業・一般産業分野において大型の設備投資に服感が見られたこと等により、前事業年度と比較しても、受注環境はより厳しいものとなっております。この結果、受注高410億円（前年同期比14.1%減）、売上高349億円（同5.3%増）、経常利益19億円（同20.4%減）、中間純利益10億円（同27.4%減）となりました。

当中間期末の配当金につきましては、当中間期の実績及び下期の見通しを勘案し、1株当たり6円といたしました。なお、年間配当金は1株当たり12円を予定しております。

2. 中長期的な会社の経営戦略及び目標とする経営指標

当社グループは、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境の変化や、より純度の高い水を必要とする産業技術の進化など、大きく変化する事業・市場環境の中で「存在感」を持つ企業集団を目指してまいります。

基本的な指針としては、プラント・ソリューション・機能商品3事業のシナジー拡大・強化、新技術・新商品の開発と継続的な品質・コスト競争力の向上、経営・事業基盤の強化を掲げております。

中期的な経営目標としては、連結売上高1,000億円、経常利益100億円を掲げ、「成長への新たな挑戦」をテーマに取り組みを進めております。

3. 通期の見通し

2007年度のがわが国経済は、引き続き緩やかな回復基調で推移するものと見込まれております。しかしながら、

米国経済の動向をはじめ、資源価格の高騰、金融市場の不安定化等に加え、国内・海外の政治動向等、先行きの不安要因はより大きなものとなっております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、受注・売上の拡大を目指した営業部門の強化、より一層の原価低減を目指した技術・生産部門の強化、新技術・新商品の開発を目指した技術・開発部門の強化に努めてまいります。

通期の見通しにつきましては、受注高860億円（前期比0.3%増）、売上高820億円（同4.5%増）、経常利益64億円（同13.8%減）、当期純利益39億円（同12.9%減）を見込んでおります。

4. 最後に

当社グループを取り巻く事業環境は、近年大きく変動しております。長年に亘って当社グループの事業の柱であった電力事業関連の設備投資や公共投資は引き続き低迷し、好調な民間設備投資においても、資材コストの高騰・労働力不足といったコストアップ要因がある中で、顧客のニーズはますます多様化しており、受注競争はより厳しいものとなっております。

当社グループは、こうした課題の解決に向けた施策として、成長事業への経営資源の集中を図るとともに、設備のユニット化によるコストダウン・納期短縮の推進、新製品・新技術の開発を目指した技術・開発部門の強化、地域・顧客密着による営業体制の強化、水処理アウトソーシング受託をはじめとするソリューション事業の拡大等に取り組んでまいります。

このような施策を通じ、当社グループはものづくりにこだわるエンジニアリング企業グループとして、「顧客の声」に応える高品質の商品・技術・サービスの提供に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成19年12月

連結対象グループ会社



沿革

- 1946年（昭和21年） 株式会社日本オルガノ商會を長野県諏訪市で創立
- 1951年（昭和26年） 日本最初の大型純水装置を完成
- 1952年（昭和27年） ローム・アンド・ハース社（米国）と提携し、イオン交換樹脂「アンバーライト」の日本総代理店となる
- 1961年（昭和36年） 東証2部に上場
- 1966年（昭和41年） オルガノ株式会社と商号を変更
- 1985年（昭和60年） 東証1部に指定替え
埼玉県幸手市に食品加工材の調査を行う幸手工場を完成
- 1986年（昭和61年） 埼玉県戸田市に総合研究所〔現開発センター〕を完成
- 1989年（平成元年） 茨城県つくば市に、イオン交換樹脂の精製を行うつくば工場を完成
- 2000年（平成12年） 福島県いわき市に、水処理装置ユニットの製造を行ういわき工場を完成
- 2003年（平成15年） 中国蘇州市にオルガノ（蘇州）水処理有限公司を設立
- 2005年（平成17年） 神奈川県相模原市に開発センターを移転
- 2006年（平成18年） 創立60周年

●中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)	前 期 (平成19年3月31日現在)
資 産 の 部			
流 動 資 産	49,854	48,505	59,497
固 定 資 産	29,842	27,651	28,209
資 産 合 計	79,696	76,156	87,706
負 債 の 部			
流 動 負 債	33,425	31,525	41,162
固 定 負 債	7,757	9,304	8,555
負 債 合 計	41,182	40,829	49,717
純資産の部			
株 主 資 本	37,499	34,269	37,066
資 本 剰 余 金	8,225	8,225	8,225
資 本 剰 余 金	7,509	7,508	7,509
利 益 剰 余 金	22,041	18,645	21,477
自 己 株 式	△ 276	△ 109	△ 145
評 価 ・ 換 算 差 額 等	568	717	566
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	515	793	580
為 替 換 算 調 整 勘 定	53	△ 75	△ 13
少 数 株 主 持 分	445	339	356
純 資 産 合 計	38,514	35,327	37,989
負 債 純 資 産 合 計	79,696	76,156	87,706

●中間連結株主資本等変動計算書 (要旨)

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等	少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成19年3月31日残高	8,225	7,509	21,477	△ 145	37,066	566	356	37,989
中間期中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△ 461	—	△ 461	—	—	△ 461
中間純利益	—	—	1,025	—	1,025	—	—	1,025
自己株式の取得	—	—	—	△ 131	△ 131	—	—	△ 131
自己株式の処分	—	0	—	0	0	—	—	0
株主資本以外の項目の中間期中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	2	89	91
中間期中の変動額合計	—	0	563	△ 130	433	2	89	525
平成19年9月30日残高	8,225	7,509	22,041	△ 276	37,499	568	445	38,514

●中間連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売 上 高	34,984	33,219	78,467
売 上 原 価	25,893	23,759	56,789
売 上 総 利 益	9,091	9,460	21,677
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	7,092	6,903	14,154
営 業 利 益	1,998	2,557	7,522
営 業 外 収 益	125	110	189
営 業 外 費 用	145	182	284
経 常 利 益	1,978	2,485	7,428
特 別 利 益	11	3	436
特 別 損 失	58	37	334
税金等調整前中間 (当期) 純利益	1,930	2,451	7,529
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	584	955	3,397
法 人 税 等 調 整 額	247	52	△ 373
少 数 株 主 利 益	73	31	29
中 間 (当 期) 純 利 益	1,025	1,412	4,475

●中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,594	210	850
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,146	△ 261	785
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 839	△ 1,169	△ 1,660
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	△ 4	9
現金及び現金同等物の減少額	△ 368	△ 1,224	△ 14
現金及び現金同等物の期首残高	5,237	5,125	5,125
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	127	127
現金及び現金同等物の中間期末 (期末) 残高	4,869	4,027	5,237

●機能水製造装置「酸還王」が「経済産業大臣賞」受賞

当社製品である電子部品洗浄用機能水製造装置「酸還王」は本年6月、(社)日本産業機械工業会主催の第33回優秀環境装置表彰事業において、最高位である経済産業大臣賞を受賞しました。本装置は、半導体製造、液晶パネル製造における洗浄水の製造などの用途で使用されています。本装置の処理効果、環境負荷低減効果(節水効果など)、豊富な納入実績などが評価され受賞の運びとなりました。



酸還王H300

●「オルガノ(水質及び水環境)奨学金」制度を新設

当社は、水質汚染等の環境問題が深刻化している中国において水環境保全技術に携わる研究者の支援を目的に、業績を評価し、優秀者を表彰する活動として、「オルガノ(水質及び水環境)奨学金」制度を新設しました。本年8月に最終選考会及び表彰式を北京にて開催し、大学院生2名を表彰しました。本制度は今後毎年開催していきます。



表彰式の様子

●開発センター増設工事が進行中

神奈川県相模原市にある開発センターでは、排水処理技術や先端技術開発等の強化のため、クリーンルームなどを有する研究棟及び大型実験棟の増設工事を本年7月より開始しております。工事は順調に進んでおり、竣工は来年5月、運用開始は来年6月を予定しております。



建設風景

●中間貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)	前 期 (平成19年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	38,204	39,012	47,493
固定資産	27,648	25,530	26,018
資産合計	65,852	64,542	73,511
負債の部			
流動負債	26,939	26,072	34,098
固定負債	6,609	8,025	7,340
負債合計	33,549	34,098	41,438
純資産の部			
株主資本	31,809	29,672	31,514
資本金	8,225	8,225	8,225
資本剰余金	7,509	7,508	7,509
利益剰余金	16,351	14,048	15,925
自己株式	△ 276	△ 109	△ 145
評価・換算差額等	494	771	558
その他有価証券評価差額金	494	771	558
純資産合計	32,303	30,444	32,073
負債純資産合計	65,852	64,542	73,511

●中間損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	24,995	24,933	59,510
売上原価	19,550	18,400	44,539
売上総利益	5,444	6,533	14,971
販売費及び一般管理費	4,746	4,785	9,870
営業利益	697	1,748	5,100
営業外収益	653	449	600
営業外費用	127	82	197
経常利益	1,223	2,114	5,502
特別利益	8	5	451
特別損失	28	4	295
税引前中間(当期)純利益	1,203	2,115	5,658
法人税、住民税及び事業税	75	622	2,463
法人税等調整額	240	87	△ 317
中間(当期)純利益	887	1,405	3,513

●中間株主資本等変動計算書(要旨)

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株 主 資 本						自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						
		資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金					
平成19年3月31日残高	8,225	7,508	0	832	15,093	△ 145	31,514	558	32,073	
中間期中の変動額										
剰余金の配当	—	—	—	—	△ 461	—	△ 461	—	△ 461	
別途積立金の積立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中間純利益	—	—	—	—	887	—	887	—	887	
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△ 131	△ 131	—	△ 131	
自己株式の処分	—	—	0	—	—	0	0	—	0	
株主資本以外の項目の中間期中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	△ 64	△ 64	
中間期中の変動額合計	—	—	0	—	425	△ 130	295	△ 64	230	
平成19年9月30日残高	8,225	7,508	1	832	15,519	△ 276	31,809	494	32,303	

オルガノの事業には、水処理装置の販売を行う「プラント事業」、納入した装置のメンテナンスや運転管理を行う「ソリューション事業」、標準製品や薬品の販売を行う「機能商品事業」があります。

プラント事業

●電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄用の超純水は、日本のトップメーカーをはじめ海外メーカーでも用いられています。工場の大型化に合わせ、1時間あたり2,000m³という大流量への要求にも応えると共に、環境へ配慮した排水を出さないクローズド化にも取り組んでいます。

●一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプや繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業で目的に応じて最も効果的に装置を組み合わせ、効率よくプロセス用水を製造・処理するシステムを提供しています。

●電力分野

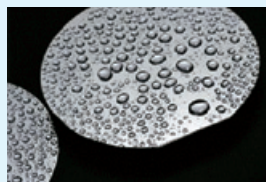
高い信頼性を求められる火力・原子力国内発電所向け水処理プラント。この分野でのマーケットシェアは7割に達し、原子力発電所向け水処理設備ではさらに高いシェアを有します。

●上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。浄水場では沈でろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。

●医療薬品分野

注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純水蒸気発生器など、高度な品質管理のもとに効率よく各種技術を組み合わせ、高純度でパイロジェン（発熱性物質）を含まない安心の水をつくります。



ソリューション事業

●メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

●提案型サービス

既設水処理装置の設備診断と合わせ、改善・改良提案、薬品使用量低減及び廃棄物削減など環境へ配慮した提案を行っています。

水処理アウトソーシング受託事業

●包括メンテナンス

お客様工場内の水処理装置の点検、消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括で引き受けます。

●運転管理

お客様工場の設備担当者に代わり、オルガノが運転担当者を派遣し、水処理装置の運転管理を行います。

●処理水供給

お客様工場内へオルガノが水処理装置を設置し、処理水の供給及び水処理の受託を行います。



●遠隔監視

オルガノ本社に監視センターを設置し、水処理装置の警報通知を受け、早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブルを削減します。

機能商品事業

●標準製品（レディメイド商品）：小型水処理装置は豊富なラインアップを有し、ユーザーニーズに合わせて広く用いられています。様々な機器を組み合わせることができるトレイン化も好評です。

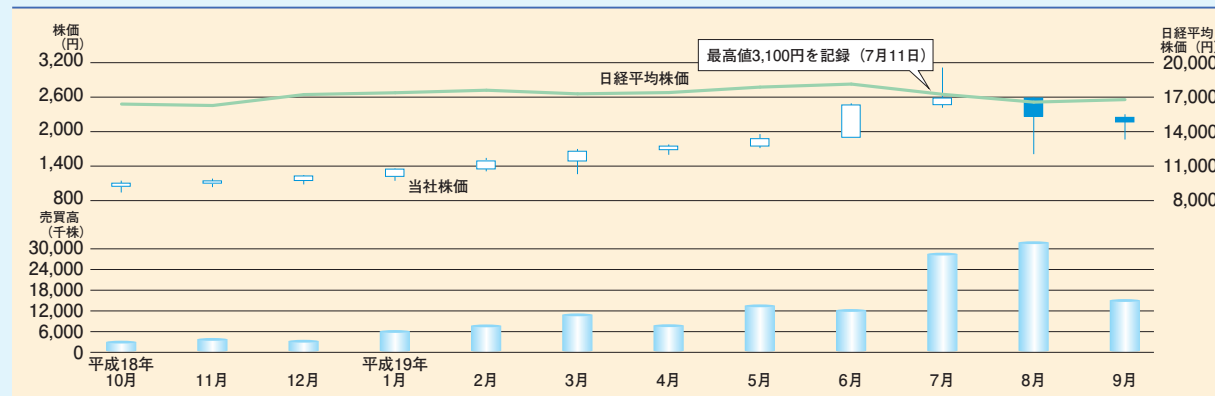
●水処理薬品：冷却水・ボイラー・排水処理剤など多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。

●食品添加剤：健康志向にあわせ食品の付加価値を高める品質改良剤、食品素材を食品メーカーへ提供しています。

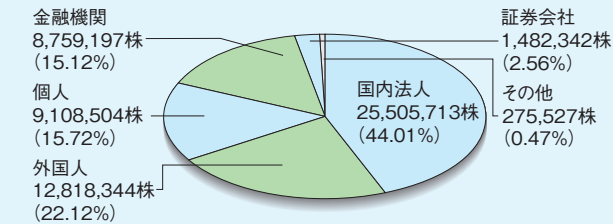
- 発行可能株式総数 126,960,000株
- 発行済株式総数 57,949,627株
- 株主総数 5,902名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ビクテアンドシーヨーロッパエスエー株式会社	2,503	4.31
株式会社みずほ銀行	1,773	3.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,519	2.62
エイチエスピーシーファンドサービスクライアントズ アカウト 006 ケーアール	1,397	2.41
シーピールクスパイオニアアセットマネージメント エス. エイ.	1,185	2.04
クレジットスイスファーストボストンヨーロッパビビセクアイエスティノトリティクライアント	1,005	1.73
ベアスターズクリアリング	974	1.68
ユービーエスエイジーロンドンアジアエクイティーズ	819	1.41
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33

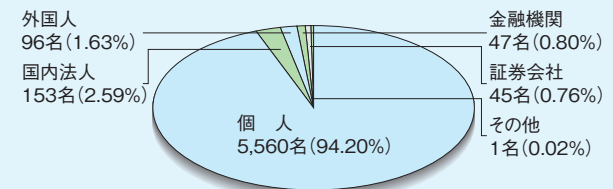
●株価及び売買高の推移



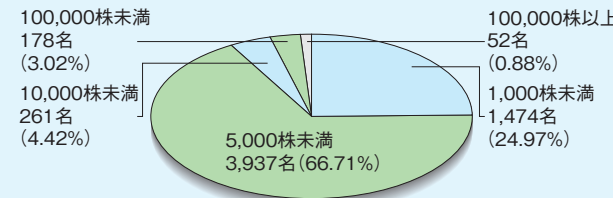
●所有者別株式分布状況



●所有者別株主分布状況



●所有数別株主分布状況



- 商号 オルガノ株式会社
 - 創業 昭和21年5月1日
 - 資本金 8,225,499,312円
 - 本店所在地 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 - 従業員数 662名(連結 1,636名)
 - 主要な事業所
- | | |
|--------|---|
| 本社 | 本 |
| 開発センター | 社 |
| つくば工場 | |
| いわき工場 | |
| 幸手工場 | |
| 周南事業所 | |
| 北海道支店 | |
| 東北支店 | |
| 中部支店 | |
| 関西支店 | |
| 中国支店 | |
| 九州支店 | |
| 台湾支店 | |

●主要な事業内容
 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品類の製造、販売を主な事業としております。

●役員

取締役会長	傳田正彦
取締役社長兼CEO	橋本喜代志
取締役兼常務執行役員	近藤昭夫
取締役兼常務執行役員	田中康彦
取締役兼常務執行役員	鬼頭和夫
取締役兼常務執行役員	飯塚廣
取締役兼執行役員	中村聖和
取締役	佐々木博朗
常勤監査役	太期敏之
常勤監査役	小柴勲彦
監査役	川村克彦
監査役	吉田正俊

(注1) 傳田正彦、橋本喜代志の両氏は代表取締役であります。
 (注2) 佐々木博朗氏は社外取締役、川村克彦及び吉田正俊の両氏は社外監査役であります。

●グループ会社

(国内)	
オルガノ北海道株式会社	北海道
オルガノ東北株式会社	宮城県
オルガノ東京株式会社	東京都
オルガノ中部株式会社	愛知県
オルガノ関西株式会社	大阪府
オルガノ九州株式会社	福岡県
オルガノプラントサービス株式会社	東京都
オルガノダニスコフードテクノ株式会社	東京都
オルガノアクティ株式会社	東京都
オルガノ山下薬品株式会社	広島県
オルガノ・ハイテック有限公司	山口県
環境テクノ株式会社	東京都
東北電機鉄工株式会社	山形県
(海外現地法人)	
Organo (Asia) Sdn.Bhd.	マレーシア
オルガノ 奥加諾(蘇州)水処理有限公司	中国
オルガノ・テクノロジー 奥璐佳璠科技股份有限公司	台湾
Organo (Singapore) Pte Ltd.	シンガポール
Organo (Thailand) Co., Ltd.	タイ
オルガノ 奥加諾(上海)水処理有限公司	中国
Organo (UK) Ltd.	イギリス
PT Organo Indonesia	インドネシア